長崎へ行き、学んだこと

松戸市立第二中学校　１年

内田　歩築

私は長崎平和大使として長崎に行き、戦争や原爆の悲惨さ、恐ろしさ、そして、平和の尊さについて学びました。

私は長崎派遣の中で特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は青少年ピースフォーラムの活動です。青少年ピースフォーラムでは実際に被爆された方のお話を聞きました。原爆によってたくさんの人が亡くなったことや、大きな被害を受けた人がいることを知り、原爆の恐ろしさを感じました。また、原爆による被害はその時だけでなく、その後も後遺症や差別、生活の苦しさなどに繋がっていることを聞き、戦争が人に与える影響の大きさを感じました。私は、原爆による被害は戦争によって起こったものだからこそ、戦争はあってはならないと改めて

思いました。

二つ目は原爆資料館での見学です。原爆資料館には思わず目をそらしたくなるほど見るのがつらい写真や展示物がたくさんありました。背中が血で真っ赤になった男の子、黒焦げになった少年、駅のホームで倒れている母子の遺体などの写真があり、何も悪いことをしていない人たちが原爆によってこんなにも大きな被害を受けたんだと思い、とてもつらい気持ちになりました。たった一発の原子爆弾で、これまでの当たり前の生活が壊れ、大切な人まで失ってしまうと思うと、もし自分だったら、毎日がとても怖くて苦しいと思います。他にも 11 時 2 分を指したまま動かない時計、溶けた硬貨やびん、割れた眼鏡、炭化した麦などからも当時の被害の大きさを感じました。

長崎派遣を通して私は戦争はあってはならない、もう二度と核兵器を使ってはいけないと改めて思いました。核兵器を使わないためには私が長崎で学んだことを家族や友達など多くの人に伝えて、核兵器の悲惨さ、恐ろし

さを知ってもらうことが大切だと思います。

　また、私は長崎へ行く前、戦争や原爆のことを知りませんでした。でも、長崎に行き、知っていくにつれて、当時は今のように電子機器を使ったり、お腹いっぱいご飯を食べたり、家族や友達と話したり、遊んだりすることが当たり前ではなかったことに気づきました。

　今も世界のさまざまな場所で戦争や争いが起こっています。戦争や争いを無くすためには人と仲よくして、相手の気持ちを考えて行動することが大切だと思います。

　もし、争いや戦争がおきそうになった時は暴力や力ではなく、話し合い、認め合うことで平和に繋がると思います。

　私は長崎を最後の被爆地にするために、家族や友達、身近な人からたくさんの人に原爆の悲惨さ、恐ろしさを伝えていきたいと思います。